

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 24 年度 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	吉川 宗一郎	会員番号	0026267
申請者の 所属・職名	東京医科歯科大学院 医歯学総合研究科 免疫アレルギー学 助教		
出席会議名	2013 Keystone Symposia (Type 2 Immunity: Initiation, Maintenance, Homeostasis and Pathology joint with the meeting on Pathogenic Processes in Asthma and COPD)		
発表論文 タイトル	Mechanisms Underlying the Recruitment, Accumulation and Activation of Basophils at Tick-Feeding Sites for Protective Immunity to Tick Re-Infestation		

実施結果:

このたびは平成 24 年度(後期) Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜りまして、誠にありがとうございました。2013 年 1 月 10 日から 15 日まで米国サンタフェで開催されました Keystone Symposia (Type 2 Immunity: Initiation, Maintenance, Homeostasis and Pathology)に参加し、マダニ吸血に対する好塩基球の役割について、口頭発表とポスター発表を行いました。

さまざまな病原体を媒介するマダニは吸血性の外部寄生虫であり、最近では我が国においてもマダニ媒介性感染症による重篤な被害が報告されてきており、マダニに対する免疫が注目されつつあります。宿主には二度目以降の感染で初めて確認される、マダニに対する免疫が古くから知られており、この免疫によってマダニが十分に吸血できないことが報告されております。近年我々は、マダニ再感染時において吸血局所に多数の好塩基球が浸潤していることを発見し、この好塩基球がマダニの吸血を阻害していることを報告しました。本学会では、マダニ吸血局所への好塩基球の浸潤メカニズムを発表し、この浸潤に関与する因子をターゲットとすることで、マダニ感染に対する治療法につながるという可能性を示しました。

本研究発表を通じて貴重なアドバイスや、データの不足している点などを指摘していただき、今後取り組むべきことが頭の中で整理され、大変参考になりました。さらに、海外の研究者とディスカッションすることで、自分の視野の狭さを痛感すると共に、自分の知らなかった世界の大きさを知り、興奮と感動を覚えました。もっとコミュニケーションを取るためにも、語学力を付ける必要があることも再確認できました。

本学会に参加できたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。さらなる高みに近づけるよう、この経験を糧に精進していきたいと思っております。